

✿ コロンビア大学との研究交流始まる

「奈文研ニュース」No.41（2011年6月発行）でもお伝えしましたが、奈良文化財研究所は本年3月に米国ニューヨーク市所在のコロンビア大学中世日本研究所並びに建築・計画・保存大学院と研究協力および交流に関する覚書を交わしました。この研究協力と交流は2011年度から2015年度までの5年間にわたりおこなわれる予定ですが、初年度にあたる今年度は、奈文研から2名の研究者が、コロンビア大学で研究成果の口頭発表をおこない、先方の研究者と議論を交わしました。

研究発表は、9月27日の夕方からコロンビア大学ケントホールの一室でおこなわれました。まず、清水重敦景観研究室長が「Authenticity and Dismantling Repair System in Architectural Restoration in Japan（日本の建築修復における解体修理とオーセンティシティ）」という演題で、続いて石村智国際遺跡研究室研究員が「Memories of Sacred Landscape: Lost Female Rituals and Remaining Cultural Landscape in the Amami Islands, Southern Japan（聖なる景観の記憶：奄美の消えゆく女性祭祀と生き続ける文化的景観）」という演題で発表しました。会場には、建築学・日本文学・美術史学・宗教学などを専門とする先生方と学生の皆さんが、あわせて40人ほど集まりました。

会場の皆さんは、真剣な面持ちで熱心に発表に聞き入っていました。それぞれの発表後の質疑応答では、鋭い質問も出て、活発な議論が交わされました。

コロンビア大学との研究交流では、今後も日本の文化財研究の成果を発信していく予定です。

（文化遺産部 青木 達司）



研究発表の様子